

Economics, Management & Information Science

経済・経営・情報をマルチに学び、
自分の可能性を目覚めさせる。

経済情報学科





経済情報学部長

有吉 勇介

高校までの学びは、既に正解が分かっている問題を速く正確に解くことに焦点が当てられていました。しかし、大学卒業後の社会では、正解が見つからない問題が無数にあふれています。例えば、新型コロナウイルス、地球温暖化、ウクライナの戦争、先進国の人口減少、発展途上国の食料問題など、挙げればきりがありません。これらの問題は国境を越えた協力なしには解決できず、簡単な正解は存在しません。また、身近に目を向けると、例えば会社で新製品開発を任されたとすると、どんな商品が市場で受け入れられるかという問題に正解はありません。成功する新製品を生み出すことは容易ではありません。このように社会では、正解のない課題に対し、長期間にわたって深く考え、試行錯誤し、創造的な解決策を模索することが求められます。

では、大学で皆さんは何を学ぶべきでしょうか。それは、卒業後に社会で求められる正解のない問題への向き合い方、その対応力です。長期間にわたり深く考え、他者の意見を聞き、解決策を見つけ出す能力が、大学で学ぶべきスキルになります。そのためには、疑問を持ち続け、教科書の内容に対しても、その理由・根拠の妥当性、他の見方はないかと深く掘り下げて考えることが重要です。大学のゼミや講義では、様々な質問や意見が交わされるのが普通です。どんどん質問し、自分の思考を広げてください。

経済情報学部では、経済、経営、情報技術の3つのコー

スを提供しており、異なる分野のそれぞれの専門家である教員から直接学べることは、この学部の大きな魅力です。これらの3分野、つまりマーケット、ビジネス・マネジメント、ITについての広範な知識と理解を深め、基礎から応用までの幅広い視点を育てます。そのために、まず1年目・2年目で各分野の基礎を固めた後、3年目からは専門分野を選択して深く学んでいきます。3年目からのゼミでは、自分で見つけたテーマについて、資料収集を行い、独自の着眼点で分析し、他人に理解してもらえるような論理的な文章にして卒業論文を完成させます。この過程を通じて、正解のない問題に対する解決策を広い視野から論理的に考え、伝える練習をすることで、社会で直面する様々な問題に対する解決策を論理的に考え、伝える力を養います。

大学での学びは、単に知識を暗記するのではなく、深く考える力を養うことに重点を置いて下さい。本学部での学びを通じて、皆さんなら今日の複雑で多様な世界でのどんな挑戦にも立ち向かえる力を身につけることができると信じています。皆さんの情熱と意欲が、新しい知識と成長の基礎となることを楽しみにしています。



学科紹介動画はこちら

経済情報学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育の理念・目的と求める学生像

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。

- ・ 日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人
- ・ 経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人
- ・ 現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原則を学び、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

経済情報学科の教育課程に適應するために必要な入学時の能力や適性等は、以下の通りです。

（知識・技能）

- ①人間・社会・自然に対する深い理解、経済・経営・情報3分野の基礎的な知識の修得につながる「高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語の基礎的な知識・技能」

（思考力・判断力・表現力）

- ②問題分析力・解決力・情報収集力やコミュニケーション力につながる
- ②-a.「高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語の基礎的な知識・技能をふまえた思考力・判断力」
 - ②-b.「数学的思考力」または「英語の読解力と表現力」
 - ②-c.「専門分野（経済・経営・情報）に関する文章の読解力と自らの考えを論理的にまとめる表現力」

（主体性・多様性・協働性）

- ③実社会における実践や問題解決力につながる「責任ある選択・意思決定、組織の仕組みの改善、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に向けて行動しようとする意欲」

経済情報学科の雰囲気を一部紹介します。
 学生主体の学修環境、少人数を強みにしたユニークなゼミ、
 勉学の成果を凝縮した研究発表。
 4年間を通してゆたかな時間が流れていきます。



大学は自然に囲まれています



各学生が自主的に勉強できる環境です



3年次以降のゼミでは、卒業論文の執筆に向けて、専門的な内容を学修したり、議論したり、あるいは現場見学に行ったりもします



様々な専門分野を持つ教員が
 研究室で皆様をお待ちしています(23~39ページ)



経済学では、財、サービス、労働、資本、貨幣などが市場を通じて社会の中を循環する様子（経済循環）を、理論とデータの両面から説明する技術を学びます。経済学には、家計や企業などの行動を分析するミクロ的視点と、経済全体での出来事を分析するマクロ的視点のふたつがあります。

このような視点を軸として金融論、財政学、国際経済学などを履修することによって、私たちの生活にかかわる諸問題を把握・分析するための問題発見能力と企画分析能力を磨くことができます。これらは、ビジネスパーソン・公務員を含めたどのキャリアにおいても、重要性が近年特に増しています。

大学生も、数年後には自分たちが経済社会を運営する立場になります。そのために経済コースでは、規制緩和や年金といった制度・政策、日本と世界の経済史、国際貿易などの世界情勢などについての理解を深めることを目指します。さらに、経済問題を客観的に検証するためには経済データを統計的に分析することが必要であるため、情報処理に関するトレーニングも行います。

経済の論理と技術のみならず、倫理を身に付け、世界や国といった全体を見渡すと同時に、経済主体として家計や会社を運営する能力を身に付けたグローバルな人材を育成します。

想定される進路

1. 行政機関におけるICTを活用した企画、政策の立案、実行
2. 企業、行政機関における情報活用システムの企画、事務、営業
3. 金融機関における業務



マクロ経済学

経済コース長・教授

井本 伸

マクロ経済学とは、国や地域全体の経済を分析対象とする研究分野です。経済学では全体（マクロ）と個人（ミクロ）を分けて考えます。なぜなら経済問題には「個人ではどうしようもない問題」や「個人としては正しくても、全体としては良くない行動」があるからです。例えば、不景気という経済問題は個人ではどうしようもありません。そして、不景気に節約するという行動は個人としては正しいのですが、経済全体としては物が売れなくなってしまうため良くありません。したがって、個人がどのように行動すべきかだけを考えているのは経済全体の問題を解決することはできません。そこでマクロ経済学では、政府が経済全体に対してどのように行動すれば良いのかを考えます。



公共経済学

経済コース・教授

荒井 貴史

政府による消費者や生産者に対する課税や補助金が、資源配分にどのような影響を与えるのか。価格や取引に対する規制が、社会厚生にどのような影響を与えるのか。政府の市場経済での役割はどのようなもので、その役割の理論的根拠は何か。公共財、外部性、不完全競争、情報の非対称性など、厚生経済学の第1基本定理（完全競争市場における均衡配分はパレート効率的である）の前提が損なわれている「市場の失敗」のケースを公共経済学は理論的に分析します。





金融マクロ理論

経済コース・教授
河野 洋

金融システムの在り方について理論的に研究しています。特に、金融仲介機関と市場のどちらが金融システムをより効率的かつ安定的に機能させるかに関心を持っています。又、情報、金融ネットワーク、政府規制等がマクロ経済に及ぼす影響についても興味を持っています。3・4年生のゼミでは、日本の金融制度や金融政策について基礎知識を確立し、日本の中長期的経済問題に対してどのような対策が必要であるかを議論しています。



応用ミクロ計量経済学

経済コース・教授
堀江 進也

被災者の生活再建、災害の復興資源の配分について研究しています。被災人口が莫大であったとき、被災地域が非常に広範囲にわたる場合、誰から・どこから優先的に支援すべき・復興すべきでしょうか。人の人生を左右する問題ですので、経済学の理解と応用には正確さを求められます。また、「現場」を知ることも重要です。このバランスを持ちつつ、自分が社会で重要なひとりであることを認識した人材を育成したいです。



社会思想史、経済学史

経済コース・教授
林 直樹

思想史と格闘し続けてきました。人同士の繋がりを辿る中で過去の思想=アイデアの相関を探り当て、アイデア自体をより深く理解することを目指しています。例えば、確率論的統計学で著名なベイズが約3百年前に活躍した人で、経済学の祖ヒュームやアダム・スミス、あるいはベンジャミン・フランクリンと非常に近い人間関係の中にいたと知れば、ワクワクしてきませんか。思想をつかむことは同時に著作=テキストを解析することです。テキストマイニングという、将来性に満ちてはいても取り扱い注意な技術に活を入れることも、最近の関心事です。



主要専門科目 講義風景
マクロ経済学Ⅰ
(フロー、ストックの概念をはじめとした「広い」経済学の基盤)

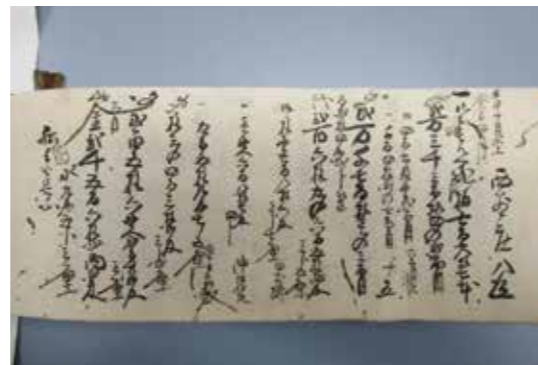


日本近世・近代の流通経済史

経済コース・教授

森本 幾子

研究室では、地域経済の歴史について学ぶことを主軸に据えています。毎年、尾道・宮島・鞆浦など身近な瀬戸内の港へ実際に足を運び、フィールドワークを行うことによって、その歴史的経緯や特徴について理解を深めています。また、手習い本をはじめ当時の仕切状や帳簿などの古文書の解読を通して、日本近世・近代の商取引の特質を学び、現代と比較しながら考察しています。



「明治二年肥物仕切帳」(徳島大学附属図書館所蔵山西家文書)より



金融論

経済コース・准教授

神崎 稔章

金融の世界は、多くの進歩と制約を経て、現在に至っています。証券化やデリバティブ等の金融革新がもたらす資金の集中や規制のバランスは重要です。ゼミナールでは、自らが主体的に議論できるスタートにたてるにはどうすればよいのかを、経済学と関連付けて進めます。1冊のテキストのみを鵜呑みにせず、社会の在りように疑問を持った方が出てくることを期待します。従って、ディベート大会や学外での経験もゼミナールの特徴です。



環境経済学

経済コース・准教授

岡本 隼輔

岡本研究室では環境経済学を軸に研究に取り組んでいます。この分野では廃棄物問題や地球温暖化問題について、経済学の視点を交えて定量的に捉えています。例えば、製品を作る際に素材の採掘や加工、流通などあらゆる段階で環境負荷が発生しますが、それら全てを考慮して計測していくライフサイクルアセスメントの概念もその1つです。また、ワークショップや工場・現場見学なども実施することで、机上の学修と現実社会とを結びつけながら問題解決能力を養っていきます。



社会保障、社会政策

経済コース・准教授

佐藤 沙織

人々の生活を支える手段は様々にありますが、戦後日本ではとりわけ医療がその中核を担ってきました。そこで「なぜ日本では医療に偏重して支える仕組みが発展したのか」という課題の究明から、医療だけに偏らないこれからの社会の支え合いの仕組みを展望することを目指しています。

ゼミナールでは、毎年、医療や福祉の現場で調査合宿を実施しています。わからないことを良く知っている人に「聞く」ことで、社会を「知る」楽しさを実感できる機会を提供しています。



吉和地区の住民との交流



卒論報告会



財政学

経済コース・講師

栗田 広暁

財政学とは、政府や公共部門の経済活動である財政を分析対象とする学問です。分析のツールとして経済学を用います。政府は、公共サービスの提供、補助金や課税などを通じて、民間(私たち)の経済活動に介入する存在です。しかし、そもそも、政府はいつ、どのように民間(私たち)の経済活動に介入すべきなのでしょう。また、政府の介入は、経済にどのような影響を与えるのでしょうか。現実社会での政府の介入は、なぜ現状のようにになっているのでしょうか。財政学はこういった問いに答えをもたらしてくれます。財政学を学びながら、一緒に考えていきましょう。



主要専門科目 講義風景
 経済学入門Ⅰ(ミクロ)
 (最適な資源配分や消費者行動に触れる「小さい」経済学の基盤)

経営学は、人、もの、マネー、情報などの経営資源を活用し、市場ニーズに応じて良質な製品とサービスを消費者へ経済的に提供するための企業組織経営の学問領域です。この専門領域を内容とする当経営コースは、経営学の基本とする経営戦略、経営組織、マーケティングの理論と方法論及び経営分析、財務・税務管理、現場管理の実務、そして経営学の史的展開を体系的に学修し、将来には企業組織の事業あるいは行政組織のプロジェクトの推進を担うことができる人材育成を目指します。

上述の目標を達成するために、経営コース中心の専門分野教育を特化し、必修科目及び選択必修科目を再編成しています。このコース所属の学生は、マーケティング戦略と経営組織の理論を主とする諸経営科目を縦断的に、経済学や情報科学などの科目を横断的に学修することによって、経営の基本的な知識と技法を的確に理解できる能力を持ち、仕事を効率的に進めるための幅広い知識とスキルを身につけて、経営の視点からビジネス上の諸問題を整理・分析・解決できる人材となることが期待されています。

想定される進路

1. 企業マネジメント全般への参画
2. 企業における経営情報を活用した経営組織の在り方や経営戦略の立案、実行
3. 企業における経営情報システムの立案、実行





会計史、簿記、財務会計

経営コース長・教授

津村 怜花

複式簿記は13～14世紀のイタリアで誕生し、世界各国に伝播しました。日本にも明治初期に「輸入」されます。なぜ複式簿記は各国に伝播し得たのでしょうか?このような疑問を探究することで、会計史は現在や未来の会計の問題等を考えるうえでの視点を提供するとともに、歴史を解き明かす、魅力ある研究分野です。

右の書籍・論文から、会計史の知識や会計史研究の魅力を知っていただくと幸いです。



ドイツと日本の経営学説、企業倫理の理論と実践ほか

経営コース・教授

西村 剛

ゼミのテーマは「ワーク・ライフ・バランス (Work Life Balance) の理論的・実践的研究」です。「仕事と生活の調和」について学んでいきます。現在「働き方改革」が注目されるなかで、日本的雇用慣行は徐々に変化しつつも依然として労働者に過酷な労働条件を突きつけています。例えば長時間労働、過労死・過労自殺、正規-非正規労働者の処遇格差など。こうした過酷な労働条件のもとで労働者はどのように企業と関わり、どう対応していくべきかを探っていきます。



天文学、宇宙物理学

経営コース・教授

川口 俊宏

ブラックホールが宇宙の歴史に果たした役割を研究しており、天文・宇宙・物理に関する授業などを担当しています。本校での唯一の自然科学分野の教員として、論理的思考力を鍛える教育を目指しています。天文・宇宙の授業を専門家が担当しているのは公立・私立大学の約1割です。天文部で活動していたり、宇宙に興味を持っている高校生が大学生になった時に、一緒に学んでいただければ嬉しいです。



銀河の中心部にある巨大ブラックホール周辺の様子

2018年8月に市民の方々向けに開催した講演会の様子。「銀河のでき方」は「やぶさ2」について解説されました。



健康・スポーツ

経営コース・教授

藤岩 秀樹

教養教育の健康スポーツ科目を担当しています。健康スポーツ科目は、「健康スポーツ学」(講義)、「健康スポーツ実習Ⅰ」、「健康スポーツ実習Ⅱ」、「野外スポーツ実習」からなっています。身体運動やスポーツを媒介に、生活の基本である健康・体力に関する正しい知識と、健康づくりの具体的方法に関する知識や実践能力の獲得をめざしています。





租税法

経営コース・教授

前田 謙二

税金は公共サービスを提供するためなどに必要であり、国会で決められた法律(税法)に基づいて納められます。人間は生きていくために日々様々な取引を行っています。すべての取引が税法と関わっています。税法を知らないために損をすることもあります。では、税法にはどのようなルール(概念・条文・判例)があり、どのような問題があるのでしょうか。租税法の研究とはそれらの問題解決や経済の変化に応じ税法はどのようにあるべきかを考えるものです。



基本的人権、憲法

経営コース・准教授

溝淵 裕

教養教育科目の法学概論、日本国憲法を担当しています。日本国憲法99条は、天皇と公務員に憲法尊重擁護義務を課しています。平成天皇は、憲法の定める国事に関する行為のみを行う(4条1項)だけではなく、「国民統合の象徴」として、戦死者を慰霊し、被災者を慰問することが、憲法を尊重することになると考えました。同姓婚の届出を受けた戸籍係、訴訟を受けた裁判官も、婚姻を文字通り「両性の合意のみ」に基づく(憲法24条1項)として請求を退けることが憲法を尊重することになるのか、それとも家族の在り方の変化に対応することが憲法を尊重することになるのか真剣に考えることが求められていると思います。このような問題について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



会社法

経営コース・准教授

王 佳子

企業の中で最も多いのが「会社」ですが、アメリカのシカゴ学派は、会社を、「契約の束」と定義しています。この考え方は、会社が無数の契約を通して、組織を形成し、さまざまな取引活動を展開しているという実態をよく捉えています。それでは、会社は、契約を結ぶことでどのような権利を有し義務を負うことになり、その権利を実現するためにはどのような手段を採ることができ、義務を履行しない際に誰がどのような責任を負うことになるのでしょうか。

本研究室は、具体的な事例をもとに、こういった問題について検討をしています。



国際経営

経営コース・講師

趙 怡純

企業の活動は国内にとどまらず海外にも展開しています。近年、海外市場での売上高が国内市場を上回るようになった企業も数多くあります。海外市場では文化・環境・制度など国内と状況が大きく異なるため、企業は予想もなかった困難に直面することがあります。その反面、海外の顧客に好まれる商品やサービスを提供し、大きな成長をとげた例もあります。本研究室ではこのような国際経営特有の課題について研究しています。皆さんと一緒に広い視野をもって企業の抱える問題を考え、議論していきたいです。





マーケティング、消費者行動

経営コース・講師

渡邊 久晃

専門はマーケティングで、なかでも消費者の購買・消費・処分まつわる意思決定について研究する消費者行動と呼ばれる領域に関心があります。私たち消費者は普段、製品やサービスを購入するとき、常に経済合理性を意識しているわけではなく、何気なく購入することのほうが多いと思います。そうした意思決定では認知や感情、感覚といった様々な心理的要因が影響しています。本研究室では、消費者行動の背後にある心理的メカニズムについて研究することで、マーケティング的な諸課題に対して示唆や含意を提供することを目指します。



情報コースでは、現代社会の基盤となっている情報技術の基本原理を中心に学び、学修事項をデータサイエンスの基礎、経済学、経営学と関連づけてより深めます。情報技術に裏付けられたデータ分析能力や課題解決能力を身につけ、情報システムの設計から運用までを担当できる社会で広く活躍できる人材を育成します。

日本の社会では、マーケット（経済）とビジネス（経営）が分かり、データサイエンスの基礎を身につけたICT技術者やコンサルタントが不足しています。例えば、ユーザ企業の置かれている市場や経営の特徴を数理的に分析し、ユーザ企業の弱みを補強し強みをさらに強化するICTソリューションを提案し、自社の経営戦略に基づいてICT戦略を立案し、それを実現する情報システムを設計したりする人材です。このようなことは工学系の情報学科を出たICT技術者には難しく、情報科学に加えて経済学や経営学も学ぶ本学科の情報コース卒業生が活躍できる場だと思います。

将来このような仕事に就く人材の育成を目指して、情報コースのカリキュラムは設計されています。情報関連科目は大きく3種類に分けられます。1つ目はコンピュータを用いて情報を適切に処理する能力を養う科目です。レポートや卒業研究など大学での学修・研究活動や、卒業後に社会における様々な活動において必要となる知識とスキルを修得するための科目です。「情報活用基礎」「情報とコンピュータ」「統計学」などの科目があります。2つ目は情報分野のより専門的な科目です。プログラミング言語によるソフトウェア開発、ネットワークの仕組みや特徴、情報システムの設計方法など、情報科学の様々な分野を学修します。データサイエンスに関連して、ビッグデータの活用や人工知能の応用なども学修します。「プログラミング」「ネットワーク科学」「情報システム設計」「機械学習と人工知能」などの科目があります。3つ目は経済分野、経営分野と情報分野が重なる領域の科目です。異なる学問分野が交差することで生まれた新しい学問を学びます。「ビジネスとデータサイエンス」「経済情報論」「経営情報論」などの科目があります。



想定される進路

1. 情報関連の企業・組織における次世代のシステム・サービス・技術の研究開発
2. 企業・組織の経営戦略に基づいた、最新技術を活用したICT戦略の提案・策定とその実現の推進
3. 企業・組織におけるICT戦略実現のための最適な情報システムの企画・設計・開発・運用の指揮



情報ネットワーク、 機械学習

情報コース長・教授

本田 治

ゼミでは情報ネットワークを主なテーマとしていますが、学生の研究テーマとしては加えて機械学習もテーマとしています。情報ネットワークの研究では、ネットワーク上で効率良く通信をしたい、通信の品質を制御したい、などの要求をどのようにすれば実現できるのかについて扱っています。機械学習の研究では、機械学習を利用して様々なデータを分析したり、機械学習の出力の多様性などを扱っています。



情報システム設計ほか

情報コース・教授

有吉 勇介

情報システム設計とは、ユーザの「こんな情報システムが欲しい」という要望を分析整理して、仕様書と呼ばれるソフトウェアの設計図にまとめ上げるまでの一連の作業のことで、最近の日本では、仕様書は日本人が作り、プログラミングはインドやベトナムなどで行う国際分業が多くなってきています。その結果、日本のIT系企業ではプログラマよりも、仕様書づくりに関わる人が増えてきています。そのため情報系の大学ではプログラミングと同じぐらいに情報システム設計の勉強が重要になってきています。



観光の支援に役立つ データベース連携型 Webシステムの開発

情報コース・教授

高山 毅

Covid-19は、観光業界にも膨大な被害をもたらしました。本ゼミでは、ITや観光情報学の立場から、観光の復興およびそこに留まらずに更なる振興を、観光者側または観光事業者側で支援し得るシステムの開発を行ないます。また、世界の潮流を見据え、「SDGs(持続可能な開発目標)を考慮した観光支援システム」「観光DX(デジタル・トランスフォーメーション)」にも取り組みます。

基盤技術としては、「Webアプリの開発手法」、および「データベースと連携できるシステムを開発するノウハウ」を習得します。IT関連の進路を選択肢にできるように、授業やゼミで力を貯め、社会で実際に役立つシステムを開発します。



数学教育、情報教育

情報コース・教授

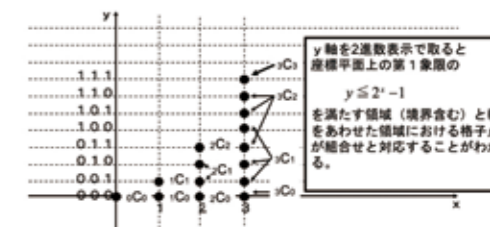
南郷 毅

私の研究室では、学習指導要領や教育に関する社会的背景を理解した上で、教育に関する諸問題を様々な角度から検討します。例えば、「教科間の関連を図る指導が重要である」という命題に対して、「数学と情報の学習事項を関連させた教材」を開発したりします。図で示しているのは、情報で学ぶ「情報のデジタル表現」を活用し、数学で学ぶ「組合せ」を解釈した教材の一部です。2進数を活用し、組合せを座標平面上で表現しています。

最近では、IT企業でも教育関連の案件で教育への理解が求められるようです。教育のわかるIT技術者になってみませんか？

2進数表示を活用した組合せの解釈

■ 座標平面上に表現された組合せ



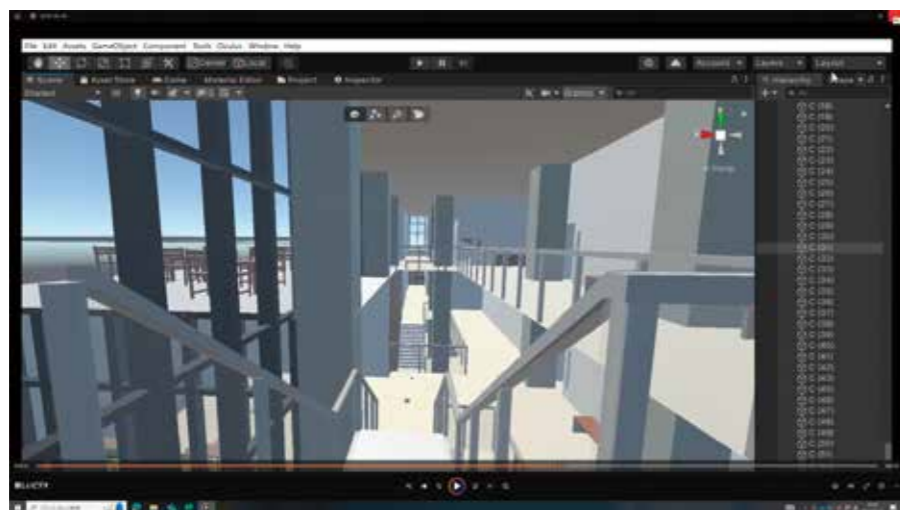


ビッグデータ、人工知能

情報コース・准教授

木村 文則

文章(テキスト)を中心とした「ビッグデータ」の分析が主な研究テーマです。最近注目されている「人工知能」にも取り組んでおり、テキストだけでなく画像も対象にしています。また、通常のゼミとは別に「人工知能勉強会」を開催し、関心のある学生がゼミの垣根を超えて集まり、協力しながら学んでいます。新しい技術についても積極的に学び、社会で活躍できる力を蓄えてもらいたいと思っています。



情報コース 講義風景
専門演習Ⅱb(本田ゼミ)
(仮想空間における尾道市立大学施設の構築)



解析的整数論

情報コース・准教授

宮川 貴史

解析的整数論という分野の多重ゼータ関数について研究しています。ゼータ関数とは、素数の背景にある関数で

$$\zeta(s) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s} = 1 + \frac{1}{2^s} + \frac{1}{3^s} + \dots \quad (\text{Re}(s) > 1)$$

という形をしています。1と自身でしか割り切れない自然数を素数と呼んでいますが、素数の列 2,3,5,7,11,13,17,19,... は未だ規則性が解明されず、関連としてリーマン予想という最大の未解決問題が残されています。

リーマン予想 (懸賞金 100 万ドル)

$\zeta(s) = 0$ ($0 < \text{Re}(s) < 1$) ならば $\text{Re}(s) = \frac{1}{2}$ である (?)

この予想解決に向けた試みによりゼータ関数の理論は大きく発展し、そこで新たに生まれた多重ゼータ関数の理論が注目されています。



2023年度卒業論文(各ゼミナールの代表論文)

- 介護人材の確保に向けて
- 機械学習を用いた人気賃貸物件の特徴分析
- キャッシュレス決済の実態と利用率向上のための提案
- ペットが家畜から家族の一員になることで日本の経済がどれだけ潤っているかについての定量的な分析
- 西条酒蔵通りにおける地域の若者による活性化の考察
- 高周波数帯に着目した騒音除去による音声復元
- マンガ出版社の海外制作における優位性
- 宅配大手3社の財務諸表分析
- KH Coder を用いた予習方法の提案
- 投資信託の課題と将来性
- 日本におけるeスポーツの発展
- 欧文直訳表現に着目した古文への機械翻訳精度を向上させる手法の提案
- 重加算税の賦課における妥当性の検討ー隠ぺい偽装行為を行う者(役員・従業員)の属性に着目してー
- インターネット上の誹謗中傷の現状
- 太田川水系と広島市のまちづくりー広島市内のフィールドワークを通してー
- プロ野球選手の複数年契約と成績の関係について



すべての
卒業論文タイトルは
こちら



経済コース卒論発表

「介護人材の確保に向けて」

荒井ゼミ 串田 洋樹

本論文では、現在社会的に話題になっている介護人材の確保について考察しました。日本では、2024年に団塊世代の人々が75歳以上、即ち後期高齢者となります。後期高齢者になると介護が必要となる可能性が高まるため、日本は正に「大介護時代」を迎えつつあります。この介護需要が拡大していく中で介護人材の不足が問題となり、どのようにしてそうした人材を確保していくのかといった政策が必要となってきます。そこで、介護人材の確保に向けた政府と民間それぞれの取り組みについて検討しました。

また介護業界では、巨大資本を持つ企業による介護事業者の合併・買収が進んでいます。こうした業界を牽引する企業間の競争が激化しており、介護人材の獲得に向けた独自の取り組みを行っている事例もあり、そうした事例について紹介しました。今後、大手介護事業者によって経営や業務の効率化がなされ、人材の確保が進展する可能性があることがさまざまな取り組みから明らかになりました。



経営コース卒論発表

「左利き用製品の研究」

小川ゼミ 川上 凜佳

本研究の目的は、左利き製品の需要を考察し、その後今後の市場の展望を究明することでした。まず、左利きの人口の割合の増加に着目し、本学学生へのアンケート調査等を実施し、調査を基礎に考察しました。左利きの割合は1割といわれていましたが、現在その割合は増加傾向にあることが分かりました。増加した理由は、矯正効果が見られないこと、差別意識がなくなったこと、多様性の考え方が広まったことが要因であると考えられます。アンケート結果から(1)左利き製品の需要が高いこと、(2)ニーズが今後も維持されること等が分かり、左利き製品の市場を拡大させるためには、①ユニバーサルデザインの定義に左利きの性質を含めた商品開発、②消費者側からは左利きの人が実感していない「不便さ」を左利きのコミュニティ等が代弁し、そうした声を届けるシステムの構築、③声を受け入れる生産者側の体制構築が必要であることが究明されました。



情報コース卒論発表

「欧文直訳表現に着目した古文への機械翻訳精度を向上させる手法の提案」

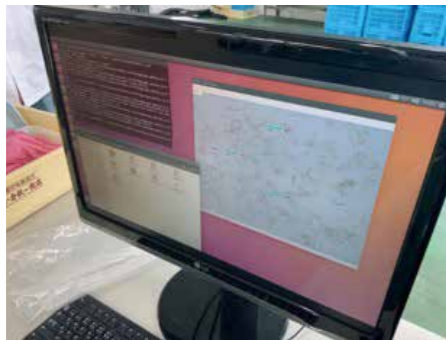
本田ゼミ 神出 伊吹

本研究の目標は、現代文から古文への翻訳精度を向上させることです。この目標を実現させるためのアイデアとして(1)欧文直訳表現を含む現代文の検出、(2)欧文直訳表現を別の表現に変換して翻訳、の2つがあります。本研究では、①欧文直訳表現検出機能、②文章の言い換え機能、③翻訳機能といった機能が存在しており、このうち、②文章の言い換え機能と③翻訳機能は既存のものを使用し、①欧文直訳表現検出機能を実現するために、ナイーブベイズとBERTを実験し、性能を比較しました。その結果は、BERTを使用した場合の性能の方がナイーブベイズを使用した場合より高くなりました。

今後の課題として学習データ数の増加と翻訳精度が向上したのか定量的に評価することが挙げられます。



地域貢献



経済情報学部では、経済・経営・情報のそれぞれの分野で、地域に寄り添う教育研究活動に取り組んでいます。

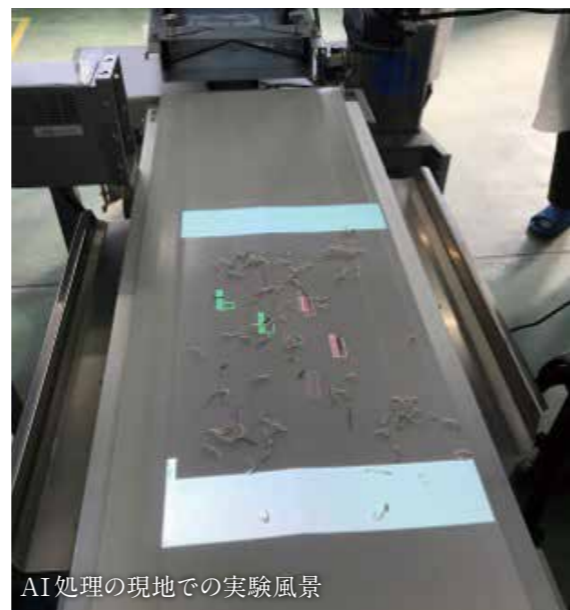
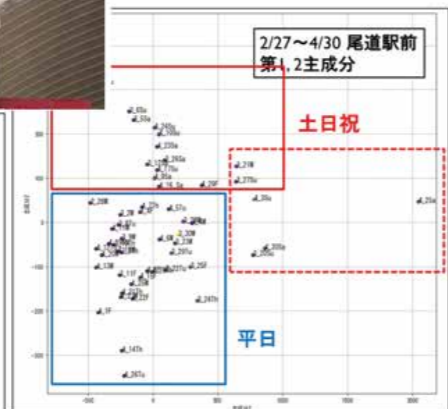
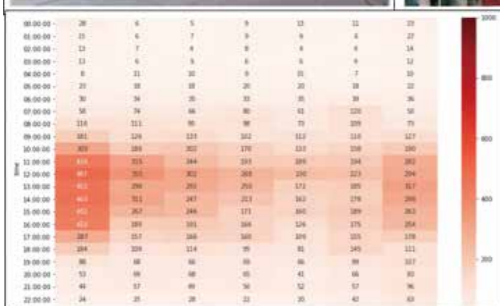
例年、商店街との連携企画や市民講座等、多彩な活動が見られます。本学科の長を生かしつつ、データと想像力と現場への関心力を駆使して町の振興を考えることもできます。



木村・本田研究室受託研究 「AIを用いた水産塩干物 製造における異物選別」



AIカメラの導入による
尾道商店街の人流調査
<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/26/47295.html>



AI処理の現地での実験風景

尾道市立大学の特色として「少人数教育」を挙げることができます。経済情報学科は他の2学科に比べて多人数ですが、教育の場を複数かつ多層に分けて提供することで、多様なニーズに応えつつ、きめ細やかな指導ができるように工夫しています。1年次の基礎演習は全員が履修する必修科目で、大学での学びのイントロとなります。3年次から4年次にかけて履修する専門演習（ゼミ）も必修科目です。指導教員のもと、全員が卒業論文を仕上げなければなりません。これは教員が一人ひとりの学生とそれだけ真剣に向き合うということです。他にも、より専門性の高い内容を少数精鋭で実践する特別演習も用意しています。教わるだけでなく教員とともに研究に励み、かつ楽しむ場として、この演習を活用できます。学生の「やる気」という最大のニーズに応じて、経済情報学科は学びの場を惜しみなく創出していきます。



向島ドック見学（森本ゼミ）



瀬戸内地域の歴史と
経済フィールドワーク（森本ゼミ）



ダムの見学風景（岡本ゼミ）



ダムの見学風景（岡本ゼミ）

少人数教育・ゼミ活動